



Title	はじめに：論集『アイヌの伝統を基層にした多文化な景観』の刊行にあたって
Author(s)	遠藤, 桂一
Citation	アイヌの伝統を基層にした多文化な景観：北海道平取地域の文化的景観に関する論説集
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92887
Type	other
File Information	ronshu_biratori (1).pdf



[Instructions for use](#)

はじめに

論集『アイヌの伝統を基層にした多文化な景観』の刊行にあたって

このたび北海道大学観光学高等研究センター（英語略称CATS）が企画・編集したユニークな論集『アイヌの伝統を基層にした多文化な景観』が冊子として刊行されることになりました。

北大CATSには、平取町が取り組んでいる〈21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト〉を、主に学術の面からご支援いただく委託業務を2019（令和元）年度以来お願いしてきました。その過程で、沙流川流域の森林をどう保全し活用するかを検討するうえでは、文化的景観の考え方を重視すべきキーコンセプト（概念）の一つに、とのご提言をいただきました。そして、高い専門性に裏付けられた参考にするべき知見が盛り込まれた調査・研究レポートを、毎年度まとめていただきました。それらは、森林に関するプロジェクトを推進し深化させるうえで、とても効果的な役割を果たしました。

また文化的景観については、平取町がすでに2007（平成19）年に「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」との名称で国の重要文化的景観として選定申出をし認められ、第2次（2016年）、第3次（2018年）と追加選定を受けてきた経緯があります。選定地の広がりや、国内屈指となっています。さらに、「基層」となっている「アイヌの伝統」の深さは、遠くは縄文土器が使われていた時代、あるいはそれ以前にさえさかのぼり、一方では未来に確実に受けつがれていく「新しい文化」との実感も強まりつつある今日このごろです。こうした流れのいったんの集成として、ここ数年は第4次の選定に向けた準備作業を行ってきたのですが、その促進にもご貢献をいただけてきました。北大CATSをはじめ関係の各位に感謝申し上げます。

この論集は、並行し影響を与えあいながら進められてきた関連の諸活動に関わって来られた町内外の方々が、それぞれの専門性や地域に対する思いを短めの論説としてまとめておられます。広さと深さを擁する当地の多文化な景観の見え方や楽しみ方は、これまた実に多様なのだとあらためて思うのです。多少難しいと感じるところがあるのは否めませんが、景観をこう見るべきだとの勉強を無理強いするものではなく、自分なりの受けとめ方・接し方をするための手がかりとして、読みやすいところから始める。そんな感じの冊子として使われると良いのではないのでしょうか。当論集を通じて、景観の見方自体も多様になり、いくらか柔らかくもなればと願っています。

2024年3月
平取町長 遠藤 桂一